

7.13新潟豪雨

2つの遅れ（行政の判断の遅れ、伝達の遅れ）

見附市 死者0人

午前11時07分 「避難勧告」

午前12時07分 「避難指示」

- * 市長：安全を優先。契約していたウェザーニューズからのアドバイス。
- * 見附市は、「避難指示」を、当初「避難命令」と発表。警戒区域を設定し、立ち入りを禁止すること。再三、「避難命令」でいいのか確認したが、それで良いとのことであった。のちに訂正されるが、怪我の功名？地元紙の夕刊も「避難命令」と大見出し。
- * 「避難命令」が判りやすかった？「避難指示」、「避難勧告」の判りにくさも示している。

三条市 死者9人（いずれも五十嵐川左岸）

午前10時10分 「避難勧告」（五十嵐川右岸）

午前11時00分 「避難勧告」（五十嵐側左岸）

午前11時40分 「避難勧告」（五十嵐川左岸 追加）

午後 1時07分 破堤（五十嵐川左岸）

- * が住民、報道機関に伝わらず。

中之島町（見附市の対岸） 死者3人

午後 0時40分 「避難勧告」

午後 0時52分 破堤（刈谷田川左岸）

- * 「避難勧告」の報道は、破堤後。

主役はテレビ

コミュニティFM(燕三条FM放送)の取り組み

特別放送開始

リスナーからの電話が第1報。NHKの逆L字で避難勧告の情報が流れたのを契機に午前9時15分から、特別放送に入る。「笠堀ダムが満水のため、先程9時40分に放流致しました。そのため、五十嵐川の各支流では水流が早く、水位が上昇しています。充分なご注意をお願いします。たった今、入ってきたニュースです。三条市の一新橋の水位が橋桁ぎりぎりに昇ってきております。このため、一新橋は現在、通行止めとなりました。付近の方は充分ご注意ください。」

緊急割り込み放送装置

3回目の避難勧告のあと、社長が市長に電話。電話による緊急割り込み放送装置を使い、直接市民に避難勧告の内容を話すよう要請。

安否情報

破堤後から放送局には、家族や知人の安否確認の問い合わせが殺到。それを放送に乗せることで、徹夜の安否放送が続く。

ラジオ配布

3～4年前、専用の受信機を1万台作る。500円で販売。在庫の2000台の無料配布。

インフラ放送から生活情報へ

中越地震の際のFM長岡との比較

防災無線とコミュニティFMを合わせた連動型の防災システム構築。

10.23新潟県中越地震

震度5弱以上全員出局

輻輳

自治体震度がなかなか出ない

主役はラジオ、4つの出口

もうひとつの主役、「携帯電話」。

地上デジタル時代の防災放送

マルチ編成

データ放送

携帯受信